

舛田 和美 議員



問 防災力の強化について

防災行政無線は、特に屋内において、外が大雨のときには聞こえてこない。行政無線の聞き直しができるテレホンサービスもあるが、災害時の緊急情報かどうかがわからないととても不安であるとの声も聞いている。

そこで、防災行政無線の難聴地域への早急な対策が必要かと考えるが、見解を伺いたい。



災害情報をはじめ、様々な情報伝達を行っている防災行政無線

答 ①防災力の強化

②教育環境

③交通網空白地域の対策

一括質問方式

現在、災害情報を確実に伝達するための方法として、大洲市災害情報メールや携帯電話のエリアメールの配信、テレビの文字情報による災害情報共有システム、広報車の巡回、市ホームページでの情報配信などを用いて、情報伝達機能の強化に努めているところです。

防災力の強化について

問 平成23年、24年にかけて小中学校の教室での暑さ対策についてお伺いし、その後扇風機やミストの設置など、暑さ対策が行われてきた。近年のこの尋常でない暑さに対し、熱中症対策など、児童・生徒の健康を最優先し、今後どのような対策をとつていかれるのか。

答 昨年大洲市校長会から、幼稚園、小・中学校の教室におけるエアコンの設置に関する要望書が提出されたところです。それを受け、まずは各幼稚園の保育室または遊戯室にエアコンを設置することとし、今年度当初において予算化したところです。

また、小・中学校については、各学校に対して6月から9月までの外気温、各教室の室温と暑さ指数の調査を依頼しているところです。今後、この調査結果を取りまとめるとともに、改めてエアコン導入に係る経費、導入後の維持管理費、他市町の導入状況等を調査し、児童・生徒の健康管理におけるエアコン導入の必要性について検討していく予定です。

問 交通網空白地域の対策について

高齢者の自動車免許証自主返納については、交通空白地域であることが早期返納のネックになっています。そこで、例えば、65歳以上の方が免許を自主返納されるときに、初乗り運賃の10回分のタクシー利用券を交付することでお得感を感じてもらい、また免許を手放した後の移動手段が確保されることで、自主返納をする方がふえ、事故防止につながるのではないかと考えるが、見解を伺いたい。

答 今年度、地域公共交通網形成計画を策定することとしていますので、公共交通の運行状況や地理的条件、住民ニーズなども踏まえながら、地域内交通の整備方法をまずは検討をして、その上で高齢者や運転免許返納者に対する支援の必要性についても判断していくないと考えて

答 屋内で放送を聞くことができる戸別受信機の整備状況について

は、大洲、長浜地域において山間部の小集落を単位とした屋外拡声子局に変えて整備することとしており、肱川、河辺地域では、従前のアナログ防災行政無線整備時に、各世帯に配備したものが活用されています。

現在、災害情報を確実に伝達するための方法として、大洲市災害情報

問 平成23年、24年にかけて小中学校の教室での暑さ対策についてお伺いし、その後扇風機やミストの設置など、暑さ対策が行われてきた。近年のこの尋常でない暑さに対し、熱中症対策など、児童・生徒の健康を最優先し、今後どのような対策をとつていかれるのか。

答 昨年大洲市校長会から、幼稚園、小・中学校の教室におけるエアコンの設置に関する要望書が提出されたところです。それを受け、まずは各幼稚園の保育室または遊戯室にエアコンを設置することとし、今年度当初において予算化したところです。

また、小・中学校については、各学校に対して6月から9月までの外気温、各教室の室温と暑さ指数の調査を依頼しているところです。今後、この調査結果を取りまとめるとともに、改めてエアコン導入に係る経費、導入後の維持管理費、他市町の導入状況等を調査し、児童・生徒の健康管理におけるエアコン導入の必要性について検討していく予定です。

問 交通網空白地域の対策について

高齢者の自動車免許証自主返納については、交通空白地域であることが早期返納のネックになっています。そこで、例えば、65歳以上の方が免許を自主返納されるときに、初乗り運賃の10回分のタクシー利用券を交付することでお得感を感じてもらい、また免許を手放した後の移動手段が確保されることで、自主返納をする方がふえ、事故防止につながるのではないかと考えるが、見解を伺いたい。

答 今年度、地域公共交通網形成計画を策定することとしていますので、公共交通の運行状況や地理的条件、住民ニーズなども踏まえながら、地域内交通の整備方法をまずは検討をして、その上で高齢者や運転免許返納者に対する支援の必要性についても判断していくないと考えて

について検討していきたいと考えています。